



ぬくもり



2026

90号

令和8年
3月1日発行



住みごころ一番・可児 —～すこやかに、にぎやかに、おだやかに暮らせるまち～の推進



悠久の時を越えて

久々利城址・二の丸跡

令和7年度 三大ニュース（実績）

5月8日 街頭啓発
『今渡地区センターまつり』

・啓発グッズ(500個) 配付



12月6日 人権講演会

場 所 福祉センター 大ホール
講 師 藤吉 恵美 氏
テマ 生活の質を高める、気分転換活動とは!!



年 間 学校への支援

・標語 (25周年)、300字小説 (18周年)
・ぬくもり教室 (14周年)
・人権本巡回 (17周年) 70冊×2コース全小学校巡回



広見小・今渡南小で開催

ぬくもりのよろこび 「おだやかに暮らせるまち可児」 可児市人権啓発センター副会長 寺島 かよ子

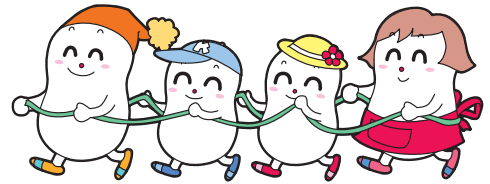
私が、本センターの推進員になって15年となります。初めは何も分からず、事務局と一緒に、市民の皆様への人権啓発活動をしてきました。しかし、年数を重ねるうちに、私たち推進員は可児市にとってなくてはならない活動をしていると感じるようになりました。例えば、小学校への「人権教室（ぬくもり教室）」を開催・全小中学校が提出していただく「人権標語・300字小説」の募集・「小学校人権本巡回（ボックス・フロー）」等、様々な直接子ども達に関わる活動をしています。『地区センターまつり』で、センターキャラクターの「ぬくもりまゆちゃん」のティッシュを配っていると「あーまゆちゃんだ！」と言ってくれます。「人権」とはすべての人に保障された権利です。微力ではありますが、私の活動が市民の方に浸透しておだやかに暮らせる町、可児市になるように啓発を継続していきます。今後ともご支援ご協力宜しくお願い致します。

発行 可児市人権啓発センター（可児市総合会館2F）
〒509-0214 可児市広見1-5 TEL/FAX 0574(63)7990

ホームページ 可児ぬくもりネット **検索**
アドレス <https://www.kani-nukumorinet.jp/>

特集 令和7年度

(審査員：他団体の代表と関係者)



第25回 人権啓発入賞[標語]の部

2,831作品より選考

【最優秀賞】

あいさつは 人と自分を つなぐ声
溝口 莉央 (小学二年生)

【優秀賞】

その言葉 立場を変えて 考えよう
PN...ポリンキーセブン (一般)
助け合い ほくらが変われば 未来変わる
水野 友翔 (小学六年生)
無視ひとつ それも暴力 心裂く
平野 あかり (中学一年生)
認めよう 異なる気持ちを 大切に
セレン ショエル (中学一年生)
たくさんの 人の支えて 「今」がある
あさの はな (小学六年生)

【入選】

違いを認め 共に笑える友がいる
日比野 銘子 (一般)
自分の命 世界で一つの たからもの
宮元 彩葉 (小学四年生)
支え合い それは小さな 勇気の種類
毛利 春華 (小学六年生)
「また明日」さよならよりも うれしい言葉
高橋 ゆうな (中学一年生)
ありがとう 一言だけでも とどけよう
立石 陽樹 (小学五年生)
ゆずりあう 少しの気づかい ゆたかな毎日
坂倉 明日華 (小学六年生)
優しさは 人へ人へと 受けつがれる
古匠 優乙 (小学六年生)

認め合い それは笑顔の もととなる
水野 絢加 (小学六年生)

自分との 違いや考え 生かそうよ
渡邊 蓮太郎 (小学六年生)

やる気出る 魔法の言葉は「やってみよう」
沖田 暖佳 (中学一年生)

何を言われても ゆらじやいけない 私私
山田 梓乃 (中学三年生)

おたがいの いけんをきいて みとめあう
とようち ゆめ (小学四年生)

声かけない それもりっぱな いじめだよ
ミアド ランス (小学五年生)

友情は 言葉のはさみで すぐ切れる
岩佐 青空 (小学五年生)

あいさつは ひとのこころを あたためる
ひびの さら (小学三年生)

大丈夫？ 手と手をとれば 笑えるね
山本 いち花 (中学三年生)

また明日 手をふり明日を たのしみに
永田 和湖 (小学六年生)

だいじょうぶ あなたの声は 響いている
月村 陽 (小学五年生)

おはようと 今日はおの子に 言ってみる
角田 瑚々音 (中学一年生)

うれしいな あったか言葉 もりだくさん
平井 柊真 (小学三年生)

名前とは 親からの思いと 自分の宝物
PN...GBジョンソン (中学一年生)

あいさつは ひとつをつかす あいこは
川村 知也 (小学四年生)

いじわるを みんなでいっしょに けしきろう
まつ田 えい太 (小学一年生)

「ありがとう」 響き合う街咲く笑顔
日比野 則幸 (一般)

第18回 人権啓発入賞[300字小説]の部

209作品より選考

【最優秀賞】

先がけあいさつ

武井 咲智 (小学六年生)

「おはよう。」まゆちゃんは毎日自分からあいさつをします。近所の人にも、家族にも、友達にも。まゆちゃんがあいさつすると、みんなの心があたたかくなり、自然とあいさつを返したくなります。

ある時、近所のおばちゃんにあいさつをすると、「やっぱりまゆちゃんのあいさつは、心があたたかくなるねえ」と言われました。まゆちゃんは、「このあいさつ一言で、みんなが喜んでくれるなんて、考えたことがなかったけれど、人にそう言われると、なんだか自分までうれしくなる。自分から先がけあいさつは大切だな。」改めてそう思ったまゆちゃんは、これからも、あいさつを続けていきます。



【優秀賞】

感謝の気持ち

山下 愛椛（小学六年生）

学校に行こうと家から出たとき、いつも家の近くにある横断歩道でおいさんが子どもたちを見守ってくださっている。私はいつも毎朝あいさつをしている。私が「おはようございます。」と言つと、おいさんも「おはようございます。」と笑顔で返してくれる。私は心の中では、感謝をしている。けれど、私は言葉ではおいさんに感謝を伝えられていない。でも、そのかわり「おはようございます。」で感謝を伝えているのだ。感謝の気持ちが言えなかったらあいさつをするだけでも相手は笑顔になると思う。なので、私は、そういうボランティアをしている人には、言葉で感謝を伝えられなかったら、あいさつをして、笑顔にしたいと思う。



【優秀賞】

勇気を出せば

酒井 凜佳（小学六年生）

「やめてよ…」
「えーw聞こえなーいw」
私は今、いじめ現場を見てしまった。でも私には関係ない。そう思つて通りすぎようとした。でも、助けたくてしようがなかった。

ニユースでいじめが原因で自殺してしまうのを見たことがある。あの子にはそうなつてほしくない…。今度は私がいじめられるかもしれない…。けど私は勇気を出した。

「やめな。そーゆーのタチ悪いよ？」
「は？アンタに関係ないじゃん。」
「いじめしてるとこ見たらもう関係者だからね？」

そこからいじめは無くなった。勇気を出せば、いじめは減つていくのかもしれない。



【入選】

必要なのは勇気だけ

竹内 実奈（小学六年生）

私は、人と話すことが二ガテ。相手がどんな気持ちか分からないから。ある日私は、親に言われ、買ひものをしてきた。用件を終わらせ、帰ろうとした時、泣いている小さな子がいることに気づいた。他の人は、その子に目を向けただけで、何事もなかったように歩き続ける。話しかけた方がいい。でも何て言えばいいのだろう。私はかくごを決めた。目の前まで行き、その子に話しかけた。「どうしたの。」と聞くとその子は「ママがいない。」と言つた。「大丈夫。」と私は言い、迷子センターへ連れていった。少し待つとその子の親が来た。「ありがとう。」と言われ私は、話しかけてよかったと思つた。

これからは、もっといろいろな人に話しかけようと思つた。

【入選】

ありがとうの大切さ

森 葵（小学六年生）

私は人見知りだつた。友達とは話すことができるのに他の人とだと話すことができない。だからだれかに何かしてもらつたとき、「ありがとう」といふことができなかったのだ、おじぎをするだけだつた。心では感謝しているのに言葉に出すことができなかった私は、いつも後からこつかいしていた。私はこのことを友達に相談した。「ありがとうというのを心がけたら自然と感謝を伝えられるようになるよ。」と友達は言った。私は心がけることにした。何かひろつてもらつたら「ありがとう」。何かしてもらつたら「ありがとう」。そうしたら相手は笑顔になつてくれた。私の顔も自然とうれしい気持ちになつてきた。これからも私は「ありがとう」を大切にしようと思つた。

【入選】

勇気がある少女と勇気がない少年

清水 さゆり（小学六年生）

「お前、また残つたのか」修学旅行のグループ分けをしていた時、面倒くさそうに怒つた

声で先生が言った。クスクスといじめつ子が笑つている。僕は誰かと遊んだことがない。「ごめんない」それしか言えなかった。小さい頃からいじめられていた。勇気がないから嫌と言えない。「もう高校生なんだから友達ぐらい作りなさい。」お母さんも怒つてきた。自分が一番分かつてる。わかつてくけど声をかけたくない。これ以上、嫌な思いはしたくないから。

「どうしたの」優しく爽やかな声が聞こえる。僕じゃない。そう思いたい。「坂田くん」。「何」「私のグループに入る？」その瞬間、太陽が顔を出した気がする。

【入選】

K先生

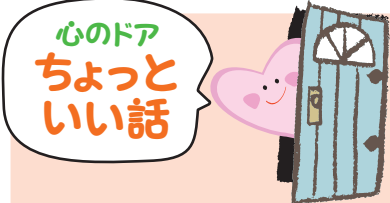
野村 秀樹（一般）

中学になつて部活にサッカー部を選んだ。この中学のサッカー部は強豪校で、小学生の時から憧れていた。

さすがに強豪校の監督の指導は厳しかった。練習中には「気合が足りん」「なぜこんなことができないんだ」「だめだ、だめだ、そんなんで」などの叱声が絶え間なく飛んだ。下手な僕は怒られ続けて自信を失い、次第に部活が楽しくなくなつてきた。

2年生の4月に監督が転勤になり、若いK先生が監督になつた。K先生は随分違った。下手な僕にさえ、「いいなあ、いまのプレー」「うん、よくなつてきた」などと声をかけられたので、サッカーが楽しくなつてきて、熱心に練習した。

3年生の夏の大会の準決勝である前監督の率いるチームと対戦した。熱戦になつたが、1対2で敗れた。早速、何が悪かつたのか、全員で反省会をやることとした。するとK先生は「それもいいが、その前にまず何がわがチームの持ち味になるのかを考えよう」と意外なことをいふた。これは反省より難しそうだが楽しそうだしがんばる気持ちになれそうだった。



数日前のことです。市内の交差点で信号待ちをしていた時、ふと左の電柱に貼られた標語が目にとまりました。文面は正確に覚えていませんが、「いじめの言葉は 心を切りつける」といったような表現だったと思います。数年、人権啓発・推進の活動に参加していたとはいえ、その標語を読んだ時、私は「はっ」としました。「そうなんだ。そうだよ。」と今更ながら言葉のもつ意味の大切さを考えさせられました。

「活動の意義」

本センターでは、毎年、市民の人心の醸成を図る目的で、『人権標語・300字小説』の募集を行ってきました。センターの推進員になって早4年。私達の地味な啓発活動も、こうして人々の目につれ、読んでもらえる機会があれば、私のように「そうなんだ!」と思ってくれる人がきつというでしょう。標語・300字小説の募集を続ける価値はあると改めて思いました。今年度も応募総数3,040点と多くの応募を頂きました。年々、参加数の減少や表現の重複も見られますが、人の心を打つ言葉や文章は、いつの時代でも変わらないと思います。今後も、多くの方々の協力を期待しています。

(推進員 B・K)



ぬくもりまゆちゃん 50

「皆様のおかげです」
作・画：miho



(当センター事務局長による作品です)

感謝!! 『子どもぬくもり教室』 vol.2

☆**広見小学校**の子どもたちから、11月5日に開催したぬくもり教室のお礼の手紙が届きました!



イラストにも感激しました。ありがとうございます!!



(推進員 W・M)

私は民生委員・児童委員を2期務め、本センターの推進員を4年間兼務して参りました。本センター推進員として、「ぬくもり教室」や街頭啓発、機関紙の刊行や高齢者人権講演会等に携わり、いろいろな経験をさせていただきました。おかげで人権に関するたくさんことができ、また、大勢の方々の出会いがありました。このような機会をいただけたことに感謝しております。今年度で推進員は辞めますが、これからもマイペーで無理をせず、地域社会に役立ちたいと思っています。その第一歩として可児地域福祉協力者に登録をし、活動を始めました。今年から後期高齢者の仲間入りをしたのですが、健康第一で今以上に怒らず、焦らず、威張らず、ゆったりとした生活を送るうと思っています。

「啓発のひかり」